

食べたい想いに寄り添う Enjoy Eatingプロジェクト



1.医療法人高輪会 2.NSリヤンド株式会社

草野由紀¹² 岡島雅美¹² 岩原真秀¹² 下村真央吏¹² 串田柚香¹² 北山美希² 藤田真悠¹² 津嶋佑衣¹²
渡辺昭子¹ 山岸ちか¹

【はじめに】

当法人は、医療対応型の複合介護施設を運営し、歯科診療所を併設する医療法人高輪会と提携関係にある。誤嚥性肺炎罹患率の高い進行性神経難病や末期がん患者の入居を推進しているなかで、「できる限り口から食べたい」という希望を持つ本人や家族の声が多く聞かれるようになった。しかし、実際には、入居前に絶飲食である事例や、病状の進行とともに経口摂取が難しくなる事例も多く、食べる意欲と機能の乖離が課題となっていた。こうした状況に対し、食べたい想いに寄り添うことを目的としたEnjoy Eatingプロジェクトを立ち上げたので報告する。

全国のリヤンド-絆-



【方法・活動内容】

2023



食支援プロジェクト始動
言語聴覚士・歯科衛生士による訪問をリヤンドファミリーユ藤枝より開始

2024



リヤンド浜松東、リヤンド仙台青葉、リヤンド仙台太白など訪問施設拡大
ケアサービス構築の模索

2025.3



リヤンド仙台青葉にてKTバランスチャート導入開始



2025.4



食支援プロジェクトからEnjoy Eatingプロジェクトへ改名
とろみ調整食品の統一化



2025.5



リヤンド仙台青葉にて、食のイベント「新緑のお茶会」開催し、
嚥下に配慮された和菓子やとろみ茶を提供



2025.6



株式会社福寿園と「とろみ抹茶」レシピ開発開始
各施設に担当言語聴覚士を配置し、定期的な施設訪問を開始

2025.7



ポッドキャスト番組
「さかそ！100年ライフ～100年時代を賢く生きる～」出演



2025.8



リヤンド仙台青葉からEnjoy Eating資格制度開始

2025.11



リヤンド浜松中央内覧会にて、Enjoy Eatingプロジェクト紹介と試食会実施



【結果】

- ・とろみ調整食品の統一およびハンズオンセミナーの導入により、とろみのつけ方の方法の標準化が進み、濃度のばらつきやダマの発生が軽減され、より安全な食事提供が可能となった
- ・KTバランスチャートを活用することで看護師や介護士も評価に参加しやすくなり、他職種による協働体制の強化につながった
- ・嚥下内視鏡検査の実施により、歯科医師による医学的な評価が得られ、個々の嚥下機能と本人の希望をすりあわせた柔軟な対応が可能となった
- ・歯科衛生士の定期的な介入により、必要時には歯科受診へ円滑に移行できる体制が整い、口腔内の健康維持・向上が促進され、食への意欲や楽しさを支える一因となった
- ・食のイベントとして嚥下に配慮した和菓子を取り寄せ、選ぶ楽しさを提供できた
- ・KTバランスチャートにおける体重測定日と他の項目評価日のずれが生じ、信頼性に課題が残った

【考察】

評価指標の導入と定期的なカンファレンスの実施により、支援の方向性が共有されやすくなり、課題の早期発見と対応へ繋がった。さらに、歯科専門職の連携による支援体制強化が、食べることへの希望を支える一助となったと考える。

食のイベントを通じて、日常とは異なる雰囲気の中で、家族や入居者同士と交流やつながりの時間を提供できた可能性がある。

また、言語聴覚士が中心となって実施していた取り組みについて、徐々に施設スタッフが主体的に活動する場面が増加している。これは、日々継続して行ってきたプロジェクト啓発活動が良い影響を及ぼした結果であると考えられる。

さらに、独自の資格制度を導入することで、今後は各施設に摂食嚥下ケアのスペシャリストが誕生し、食の希望に寄り添う支援が継続的に実現できるとともに、スタッフのモチベーション向上にも寄与すると考える。

一方で、各施設でスタッフの役割や業務の進め方には差異がみられるため、プロジェクトの円滑な推進には、今後も各施設との継続的な協議を通じて、柔軟に対応できる体制を構築していくことが課題として挙げられる。

【まとめ】

食べることは、生きがいや喜び、自己表現の手段でもあり、人生の最期まで支援されるべき大切な営みである。また、経口摂取の継続は、本人の満足度の向上に資する要因のひとつと考えられる。

今後もEnjoy Eatingプロジェクトを通じて、多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら連携を深め、最期まで食べたい想いに寄り添う支援を継続し、一人ひとりの「その人らしい時間」の実現に寄与していく。

第33回日本慢性期医療学会
利益相反の開示
一般演発表者 氏名：草野由紀
私は今回の演発表表に関連して、開示すべき利益相反はございません。